



2015-16 年度 R I のテーマ「世界へのプレゼントになろう」

R I 会長 K. R. ラビンドラン (Be a gift to the world)

## 八戸南ロータリークラブ会報

例会日：毎週木曜日 12:30 例会場：八戸パークホテル

●ガバナー 鈴木 唯司 ● 会長 伊藤 斉 ● 幹事 吉田 立盛 ● コミュニケーション委員長 三浦 晃

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/

f Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2015/

### 第 1963 回 例会 記録

《ポールハリス追悼例会》

2016 年 1 月 28 日 (木)

点鐘 12:30

レポート No. 1395



平光 S A A

### 四つの反省

- 1) 真実だったか どうか
- 2) みんなに公平だったか
- 3) 好意と友情を深めたか
- 4) みんなのためになったか どうか



清川職業奉仕副委員長

### 《会長要件》伊藤会長



先週の土曜日の親睦麻雀大会には、多くの会員とご家族の皆様に参加いただき楽しい時を過ごすことが出来ました。和気あいあいとした雰囲気に参加されたご家族の皆様にも楽しんでいただけたと思います。

今日はポール・ハリス追悼例会です。ロータリーの生みの親であるポール・ハリス氏は 1947 年 1 月 27 日に故郷であるシカゴ南部のカムリー・バンクでロータリーにささげた生涯を閉じられました。国際ロータリーではその命日の前後 1 週間以内に追悼例会を行う事を推奨しております。今日は先日アメリカからお帰りになった長嶺さんからお話をさせて頂く事になっています。先ほど皆さんに四つの反省を唱和して頂きましたが、先人を偲び、改めてロータリーについて考える機会になればと思っています。よろしくお願い致します。

### 《幹事報告》吉田立盛幹事

- ・2 月のロータリーレートは 120 円です。
- ・ザ・ロータリアン誌とサイクルアイが届いています。



### 《ニコニコボックス》吉田賢治委員長

伊藤会長：長嶺さんお帰りなさい。今日はよろしくお祈りします。

黒田会員：長嶺さん、おみやげありがとうございます。

小原会員：長嶺ガバナーエレクトお帰りなさい。

平光会員：長嶺ガバナーエレクトよろしくお祈りします。

本人誕生日：三川会員、田守会員



### 《出席報告》大橋委員長

正会員数 46 名。本日出席の出席は免除会員 6 名を含む 30 名、出席率 75% です。前々回の例会は、メーキャップ 1 名、出席率 80% でした。

### 《コミュニケーション委員会》三浦晃委員長



ロータリーの友、横組み 22P にソウル国際大会の記事で、高陽（コヤン）を 100 倍楽しむ方法と言う記事が載っています。とても良い所の様です。今回私は何人かの方と一緒に国際大会に行く予定です。前回ソウルでの大会は第 14 代の金田会長の時だったと思いますが、良い思い出があります。今回も皆さんと一緒にいきたいと思っています。

### 《ポール・ハリス追悼・長嶺エレクト所信表明》 長嶺ガバナーエレクト

1 月 17 日から 22 日までサンディエゴでの国際協議会に出席してまいりました。例年ですと国際協議会のスケジュールはビチビチと詰まっているのですが、今回はセッションとセッションの間を 30 分くらい取ってあり、割とゆったりとした形で研修することが出来ました。セッションの合間にプレゼント交換などをしながら皆さんと交流を深める事も出来ました。研修リーダーの方も、今回はゆったりと時間が取ってあって良い協議会だとおっしゃっていました。1 月 21 日に祭のタベと言うものがあり、世界各国から集まった皆さんが民族衣装を着て、各国の踊りなどのパフォーマンスをしましたが、日本は山形の花笠音頭を皆で踊りました。踊りと浴衣が好評でした。次の日の晩餐会では各テーブルに四つのテストのプレートが置いてありました。私たちのテーブルは 10 人位で、テーブルマスターは元 RI 理事の北清治さんでした。テーブルに置いてある四つのテストについて何か説明していましたが通



訳を通してよく解らなかつたのですが、四つのテストを作ったハーバート・テラーさんにちなんで6月6日に誕生日が一番近い人にプレゼントすると言うような事で、たまたま私たちのテーブルでは私の妻が一番近かつたのでいただくことが出来ました。妻にとっては四つのテストの説明をしてもピンと来ないと思いますので、私が頂いて私の宝物としてロータリーライフを楽しみたいと思います。晩餐会に四つのテストを置くと言



う事は最近なかつたようですがジョン F・ジャームエレクトの肝いりで置いたと言う事でした。次年度のジョン F・ジャーム会長は、職業奉仕とか、日本のロータリーが古来大切にしてきたロータリーの精神と言いますか、そういったものにメッセージを送られた方と言う印象を受けて帰って参りました。

今はインターネットを見れば国際協議会の様子などを全部見ることが出来ます。ジョン F・ジャーム会長エレクトの講話の講演録なども全部載っていますので、それを読んでもらえれば次年度の会長方針を理解してもらえと思いますが、インターネットを見て下さいと言ってもなかなか難しいと思いますので、今日は私の方からご紹介させていただきます。

#### 『2016-17 年度テーマ講演

RI 会長エレクト ジョン F・ジャーム』

2016-17 年度地区ガバナーをはじめとする朋友ロータリアンの皆さん。本国際協議会へようこそお越しくございました。古代ギリシャのある哲学者がこう書き残しています。「偉大な事業は小さな機会から始まるものである」なるほどと思える言葉かもしれませんが、真実はそうではないと私は思います。私は、偉大な事業は小さな機会から始まるのではなく、大きな機会から始まると思います。ただ、大きな機会は時として小さく見えるというだけです。私たちには皆、大きな機会が与えられました。ただしそれは、地区ガバナーを務める機会でも、私のように国際ロータリー会長を務める機会でもありません。私の言う大きな機会とは、皆さんがここにいたったきっかけの事です。その機会は、ガバナー指名を知らせる電話から始まったものではありません。それよりもずっと前、あるロータリアンから「私のロータリークラブの例会に来ませんか」と誘われたときに始まったものです。そのときはさほど大きな機会とは思わなかつたかもしれませんが、しかし、理由はともあれ、例会に出席させてもらうのも悪くないと誰もが感じたのではないのでしょうか。素晴らしい人たちと出会い、人のために役立つことをし、しかも楽しそうだ、と。今振り返れば、それは決して小さな機会ではなく、ロータリーを通じて社会に貢献する大きな機会であったことが分かります。その機会をつかんだことで、ロータリーという偉大な事業に参加できるようになったわけです。ですから、本日に限らず、明日、そして来年度に向けて認識すべきなのは、小さいと思える機会も、それを生かすことで大きな機会にできると言うことです。私た

ちが今週サンディエゴに来たのは、機会を与えられたからです。それはクラブがより良く、より効果的で、より野心的な奉仕活動に取り組めるようにする機会です。この機会をどう生かすかは、私たち一人ひとりにかかっています。ただし、私たちが下す決断の影響を受けるのは、私たち自身だけではありません。その影響は、決して顔を合わせることがなくとも、ロータリーのおかげで人生が変わる世界中の人びとにも及びます。今まさに世界のあちこちで、水汲みのために頭に容器を載せ、徒歩で一時間もかかる汚染された川に行き、水を運ばなければならない女性たちがいます。でも来年度、ロータリーが井戸を掘れば、その必要はなくなります。インドには、学校にトイレがないために、12~13 歳になると学校に行けなくなる少女たちがいます。でもロータリーがトイレを設置すれば、授業を受け続けられるのです。パキスタンとアフガニスタンでは毎日、ポリオ感染による身体麻痺の危険に脅かされながら生活している子どもがいます。でも来年度、予防接種を行き渡らせれば、子どもたちを恐れから解放し、近い将来に世界からポリオをなくすことができます。しかしそのためには、ガバナーとなる皆さんだけでなく、クラブ会長やすべての会員に、ロータリーへの入会がいかに大きな機会であったかを認識してもらわなければなりません。その機会は、人類のためのロータリー奉仕を通じて、より良い世界を築く機会です。ロータリーは今、岐路に立っています。来年度は、世界で最後のポリオ症例が報告される年となるかもしれません。そうなれば、ロータリーの歴史において最も重要な年となります。ポリオ撲滅の実現まで本当にあと少しです。目標達成にこれほど近づいたことはありません。南アジア全域、アフリカ全域がすでにポリオフリーとなっています。野生型ウイルスの温床となっている最後の地域は、アフガニスタンとパキスタンにまたがっており、ポリオ常在国はこれら 2 カ国を残すのみとなっています。両国はロータリーのあらゆる支援を活用して、今年がポリオ発症の最後の年となるよう、全力を尽くしています。ロータリーは 30 年以上、ポリオと闘い続け、一度もあきらめたことはありません。その間に、25 億人の子どもが予防接種を受けました。私たちは必ずや、ポリオ撲滅を成し遂げます。また、いずれ撲滅が実現した時について、今から考え、準備しておく必要があります。ポリオ撲滅におけるロータリーの貢献を十分認識してもらうにはどうしたらいいか。この成功を、その後数十年にわたって、他団体との協力、会員増強、より野心的な奉仕活動にどうつなげていくか、ということです。ポリオのない世界の実現においてロータリーが果たした役割をすべての人びとに知ってもらうこと、これが極めて重要です。なぜなら、ロータリーの功績を知る人が増えれば、パートナー団体、資金、そしてなによりも、さらに多くの達成を担っていく会員が増えるからです。ロータリーがしかるべき評価を受けるために、私たちは全力を尽くしています。しかし、エバンストンの世界本部で何もかもできるわけではありません。ロータリーとは何か、何に取り組んでいるのかを、クラブを通じて地域社会に情報を広げていただく必要があります。ですから、ポリオ撲滅が成し遂げられた時に、その機会を生かす用意がクラブにできていな

ければなりません。社会貢献をしたい人たちが、ロータリー入会こそが世界を変える方法だと考えるようにすること。そのためには、クラブにその機会を提供する用意がなければならないのです。新会員を入会させるだけでなく、ロータリー奉仕に積極的に参加できるクラブ。新会員を温かく迎え入れ、活気があり、「四つのテスト」を真に実践するクラブ。このようなクラブが必要です。ポール・ハリスが111年前にロータリーを創設した目的、すなわち、「価値観を分かち合える人を見つける」ということは、今日も人びとがロータリーに入会する理由となっています。誠実さ、多様性、寛容、友情、平和を信じ、人生の最大の目的は人類のために奉仕することだと信じている人びとと出会うことです。ロータリーは変革を遂げ、時代の変化に対応し、前進しています。しかし、その活動が子どもに本を読んで聞かせることであっても、血液バンクを設立することであっても、仮設の歯科クリニックを設けることであっても、ロータリアンをロータリアンたらしめる真髄が変わることはありません。多様性を強みとするロータリーは、今も職業分類を基本としています。高い倫理基準は時代を超えた価値観であると信じる私たちは、今も「四つのテスト」を壁に掲げています。そして何よりも、ポール・ハリスが信じたのと同じように、人生の最大の目的は人類に奉仕することだと信じています。このような理由から、2016-17年度のロータリーのテーマはシンプルに「人類に奉仕するロータリー」といたしました。朋友の皆さん、ロータリーはすでに驚くほどの功績を成し遂げました。妻ジュディーと私も本年度その多くを目にしました。しかし、ロータリーはもっと成し遂げることができると私は考えます。ロータリーがさらに前進するには、意欲と思いやりと知恵にあふれた人たちがもっと必要です。さらに、若い人たち、退職後間もない人たち、現役で仕事している人たちが皆、ロータリーに入会して活動したいと感じるような、柔軟性のあるクラブが必要です。新たなパートナーシップを模索し、ほかの団体との協力関係を切り開き、協力を通じてもっと多くを達成すべきです。リーダーシップの継続性もさらに重視する必要があります。これは、ポリオ撲滅活動から学んだように、最大限の成果を得るには、皆が共通の方向に進む必要があるからです。人類に奉仕しなければなりません。これは、私たち全員にあてはまることです。私たちは一つのチームであり、一人の達成はチーム全体の達成でもあります。しかも、達成そのものだけでなく、達成に向けて助け合うことも大切です。なぜならロータリーのリーダーシップは、奉仕活動と同様、協力が基本となるからです。これまで、地区ガバナーは「ファーストクラス」、「ベストクラス」、「ワールドクラス」などと呼ばれてきましたが、来年度は、ロータリアン全員を一つのチームとして、「ロータリーチーム」と呼びたいと思います。このチームは、より良い世界という共通の目標に向けて、共に活動し、共に奉仕し、共にがんばる、120万人のロータリアンのチームです。それがロータリーのあるべき姿です。ただし、今日ここにいらっしゃる皆さんは、その中でも特別

な方々です。ロータリーチームのレギュラーメンバーではなく、選ばれた最高のメンバーであり、「ロータリーオールスター」と呼んでもいいでしょう。助けを最も必要とする人びとの人生を変えるような活動をしているロータリアンのリーダーとして選び抜かれた皆さんを、ロータリーは必要としています。ロータリアンが井戸を掘り、学校を建て、ポリオを撲滅するのを、世界中の人びとが待っています。ロータリアンにとっては、毎日が人びとの人生を変える機会です。それが小さな機会に思えることもあるかもしれませんが、自分には大したことはできないと思うかも知れません。しかしそれらの機会は、決して小さなものではありません。皆さんが手を差し伸べる人たち、愛する人たちにとって、そして、今の世代だけでなく、これから何世代にもわたり、皆さんが行うことが違いを生んでいきます。今よいことをすれば、後世により良い世界を遺すことができるのです。よいことを、毎日一つずつ行う。それだけで違いが生まれます。

それが、私たちがロータリーにいる理由であり、まさにロータリー奉仕です。そして来年度、ロータリー奉仕が効果的に行われるかどうかは、皆さまの肩にかかっています。ロータリーが最善を尽くして人類に奉仕し、できる限り多くの人びとの人生をより良くできるようにすることが、皆さんの役割です。今も、重い水容器を頭に載せて運ばなければならない母親たち、学校教育をあきらめなければならない少女たち、ポリオにおびえながら生きている子どもたちにとって、来年度は世界がより良いところとなるように。「人類に奉仕するロータリー」がこれを実現できるようにすることが、皆さんの役割です。皆さん一人ひとりがロータリーという大きな機会を見出し、この機会をつかんだからこそ、実現できることなのです。ご清聴ありがとうございました。

(MY ROTARY より)

以上が講演内容です。ロータリーについて色々考える機会が与えられたと思います。皆さん一人一人がロータリーについて色々勉強して、ロータリーを理解して、如何にして実践するか、それはクラブや地区やRIがこうしなさいと言ってできるものではなくロータリアン一人一人がその事をふまえて勉強しながら自分の土台を作り、そのうえで奉仕活動に励んでもらいたい、今後ポリオ撲滅が終わった後、ロータリーがさらに進化するには、意欲と思いやりと知恵に溢れた人たちがもっと必要になってくると言う事でした。ロータリーに入っただけの会員を増やすのではなく、ロータリアンとして活躍できる人、ロータリアンとして奉仕活動を実践できる人を増やして、もっと大きなことで人類の為に奉仕できるロータリーに育って行ってほしいと言うメッセージが含まれていたと思います。これからポリオ撲滅が終わった次の事を考えて下さいと先ほどもお伝えしましたが、これからは公共イメージの向上を通して、ロータリーは素晴らしい活動をしている団体なのだという認識が、世間一般に伝わると、ロータリークラブとタイアップしてもっと素晴らしい奉仕活動が出来ないかと言うような話も出てくるだろうし、こ

ちからから持ち掛けてもいいでしょうし、そういった形で他団体との協力を通じてより多くの奉仕活動を達成すべく活動し、最終的には人類の為に奉仕したいという会長のメッセージです。そして、ロータリアンにとって毎日が人々の人生を変える機会になっています。ロータリアン一人一人の毎日が人々の人生を変えるような活動をしています。そういったロータリーの姿、ロータリーが最善を尽くして人類に奉仕し、できる限り多くの人々の人生をよりよくするためのお手伝いをすると言うのが、ロータリアン一人一人の役割ではないかと言っておられました。そして次年度のテーマは「人類に奉仕するロータリー」に決まりました。私は地区のスローガンとして「ロータリーの魅力を語り合おう」を掲げてやっていきたいと思います。協議会のセッションの中に「ロータ

リーモーメント」と言うものがあり、その中で「心に残るロータリーの体験」と言うのがありました。自分が今までロータリアンとしてロータリー活動をしてきて、心に残ったロータリーの体験、その魅力を周りの人と語り合っていたらいいなと思い、地区のスローガンを「ロータリーの魅力を語り合おう」といたしました。自分の感動した体験を友達に伝えて下さい。ロータリアン以外の人にも、ロータリーをやっている、こんなに素晴らしい感動に巡り合えたと言う事を皆さんから発信して下さい。発信する事によって、そんなに素晴らしいロータリークラブであれば、一緒に参加して活動してみたいと思う人が増えるかもしれない、そういった形で一緒にロータリー活動をしていく仲間を増やしていきたいと思っています。